

教科目名	言語と文化	担当教員名	
対象学科	エコデザイン工学専攻	高熊哲也	
学年	2年	この授業の単位種別・1単位の内訳	
開講期	後期	()履修単位	(○)学修単位
必選区分	選択	90分授業 × 15回	(15)時間授業 + (30)時間家庭学習
単位数	2単位		
授業の形態、手法	日本の近代化の断面を示す、いくつかのテキストを講読し、経済、文化、社会、産業、芸術などの側面から、日本の近代化の背負った問題について講義する。		
授業の実施体制	担当者の単独講義、演習		
キーワード	近代化、文学、文化、産業社会		
育成する社会人基礎力	人間や人間社会に関して、健全でバランスの取れた幅広いものの見方を育成する。文化や芸術に関心や興味を持つ。		
<p>学習目標(授業の狙い) 開国以後、近代産業社会の構築が急務であった明治期にあって、どのようなことが要請され、どのような試みの中に、どのような矛盾や課題が起き、時代の進展の中にどのようなことが置き去りにされていったか、その諸相をとらえ理解する。実学の奨励、新しい芸術観の移入と取り組み、そのひずみと限界、産業社会の進展、新しい家族や社会意識の形成、忘れ去られていく旧時代の世界、などをテキスト講読を通して明らかにする。</p>			
【学習・教育目標】			
【関連科目】	歴史学、社会学、文学など		
【教科書】教科書	「近代の文章」(筑摩書房)分銅惇作、鈴木醇爾編		
【教科書】関連図書	講義時に随時紹介する。		
【履修上の注意等】 【備考】	明治期の文語テキストの講読は、初めての経験に近いと思われる。しっかりと音読し、そのリズムになれること。現代語とのギャップを埋めるために、語彙やタームを綿密に調べること。		
【科目の達成目標】	【評価方法と基準】		
授業の目標と概要に掲げた内容について理解を深め、自分なりの思索や調査も加えて、文章に表現することができるようにする。	レポート評価とする。扱う教材六編すべてにわたって課題レポートを設定するが、そのうち4点を必須提出として提出し、1点あたり25点満点で評価し、合算して評価する。		

授業項目	授業内容
1回 ガイダンス 福澤諭吉「学問のすすめ」Ⅰ	講義の狙い、全体概要・計画について説明 「学問のすすめ」第1編講読
2回 「学問のすすめ」Ⅱ	実学の奨励が要請された背景に考察を加えながら、 福澤の思想の先見性とその限界について考える。
3回 坪内逍遙「小説神髓」Ⅰ	「小説神髓」（小説の主眼）の講読
4回 坪内逍遙「小説神髓」Ⅱ	西欧からの芸術観の移入を背景に、坪内が唱えた新 しい小説のあり方を捉える。旧来の読本や稗史との 比較して展開される坪内の主張の自然主義への方向 性を押さえつつ、文学表現の多様な可能性について も考察する。
5回 幸田露伴「文明の庫」Ⅰ	「文明の庫」講読演習
6回 幸田露伴「文明の庫」Ⅱ	演習問題の解答と解説による「文明の庫」講読
7回 幸田露伴「文明の庫」Ⅲ	マニファクチャーから、分業と自動化（機械化） による産業技術の進展を背景に、ものづくりの進 歩・文明史を説く露伴の思想を把握する。翻って、 産業技術の進展が疑いなき善であった時代の思想か ら、現代の問題を透視してみる。
8回 樋口一葉「十三夜」Ⅰ	教科書に採録されていない、上／中も含めて、作品 全体を講読する。
9回 樋口一葉「十三夜」Ⅱ	西欧の新思潮の移入に伴い、人権思想、民主主義的 主張、新しい社会意識・家族観・結婚（恋愛）が知 識人層に浸透し始めた。旧来の伝統的（封建的）な 価値観との軋轢に苦しむ女性たちの姿を捉えた作品 の先見性について考察を加える。
10回 樋口一葉「十三夜」Ⅲ	ジェンダーの概念について略説し、明治期の過渡期 のテキストには、性差別意識などが無意識のうちに すり込まれていることを、今日的視点から捉え得る ことについて考察する。
11回 石川啄木「性急なる思想」Ⅰ	「性急なる思想」を講読し、大逆事件に対する啄木 の立ち位置に着目しながら、皮相な近代化に対する 厳しい批判意識をとらえる。
12回 石川啄木「性急なる思想」Ⅱ	啄木の詠んだ和歌の読解を踏まえて、作者の伝記的 事実と対照しながら、その思想と実人生の齟齬につ いて考察する。
13回 森鷗外「妄想」Ⅰ	「妄想」を初期作品「舞姫」と対照しながら講読す る。
14回 森鷗外「妄想」Ⅱ	ドイツ留学の意味づけが、「舞姫」から「妄想」い たる間にどのように深化したかを把握しながら、巨 人鷗外が自身を時代にどう位置づけていたかを探 る。
15回 全体のまとめ	近代化の歴史は産業技術の進展とともにあるという 意味で、高専に学ぶ学生はその歴史やひずみにつ いて自覚的であるべきこと。また産業技術のみなら ず、文化・社会に幅広く関心を持って、真の人間の 幸福に資することが技術者の社会的責任であるこ と、について考える。
期末試験	試験は実施しない

教科目名	環境社会学	担当教員名	
対象学科	エコデザイン工学専攻	高松 さおり	
学年	2年	この授業の単位種別・1単位の内訳	
開講期	後期	()履修単位	(○)学修単位
必選区分	必修	90分授業 × 15回	(15)時間授業 + (30)時間家庭学習
単位数	2単位		
授業の形態、手法	講義 A (100%) 授業手法1		
授業の実施体制	教員		
キーワード	持続可能性, 公害, 地球環境問題, 環境問題と経済, リスク		
育成する社会人基礎力	理論的思考力、自主自立、共存共生		
<p>学習目標(授業の狙い) 環境とは、人間活動と相互作用を及ぼすものであることから、その意味では科学技術のみでは理解できず、社会的な視点が必要である。その観点から、まず人類の歴史における環境問題を捉え、次に日本において社会問題となった公害からはじめて大気、水環境問題について学ぶ。さらに、現在における廃棄物などの問題でリスクマネジメント等の新たなコンセプトが提唱されており、21世紀の循環型社会構築のための公共政策についても学ぶ。これらについて、より理解をふかめるために、いくつかの課題についてレポートを課す。</p>			
【学習・教育目標】			
【関連科目】	環境工学、工学倫理		
【教科書】教科書	教科書は特に決めていない。		
【教科書】関連図書	参考になる図書や情報、資料等は随時講義中に伝える。		
【履修上の注意等】 【備考】	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。		
【科目の達成目標】	【評価方法と基準】		
<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の歴史を理解する ・環境問題が起こる社会的背景を理解する ・これまでの環境問題に対する法などの役割を理解する ・リスクアセスメント、リスクマネジメントなどの概念を理解する ・持続可能な社会構築の意味を理解する ・持続可能な社会を構築するための社会システムのあり方について理解する 	講義毎の小レポートおよび課題レポート (40%)、発表 (60%) により総合的に評価し、60点以上を合格とする。		

授業項目	授業内容
1回 ガイダンス	授業に関するガイダンスを行う。
2回 地球環境問題	地球温暖化などの地球環境問題が及ぼす社会的影響について講義する。
3回 省エネルギー・代替エネルギー技術	省エネルギー・代替エネルギーに関する技術について概説する。
4回 持続可能な社会構築のための技術 (1)	自らの特別研究と絡め、地球環境問題あるいは持続可能な社会の構築のための技術についてパワーポイント形式で発表を行う。
5回 持続可能な社会構築のための技術 (2)	自らの特別研究と絡め、地球環境問題あるいは持続可能な社会の構築のための技術についてパワーポイント形式で発表を行う。
6回 持続可能な社会構築のための技術 (3)	自らの特別研究と絡め、地球環境問題あるいは持続可能な社会の構築のための技術についてパワーポイント形式で発表を行う。
7回 持続可能な社会構築のための技術 (4)	自らの特別研究と絡め、地球環境問題あるいは持続可能な社会の構築のための技術についてパワーポイント形式で発表を行う。
8回 持続可能な社会構築のための技術 (5)	自らの特別研究と絡め、地球環境問題あるいは持続可能な社会の構築のための技術についてパワーポイント形式で発表を行う。
9回 廃棄物をめぐる問題	廃棄物問題の現状について講義する。
10回 持続可能な社会を支える法の役割	持続可能な社会のための法の役割について考える。
11回 リスクマネジメント (1)	リスクの概念を概説し、リスクマネジメントの考え方について学ぶ。
12回 リスクマネジメント (2)	リスクの概念を概説し、リスクマネジメントの考え方について学ぶ。
13回 持続可能な社会システムと環境政策のあり方	持続可能な社会構築のための社会システムのあり方について考える。
14回 まとめ	今回の授業をとりまとめる。
15回 アンケート	
期末試験	

教科目名	環日本海文化論	担当教員名	
対象学科	制御情報システム工学専攻	宮崎 衣澄	
学年	2年	この授業の単位種別・1単位の内訳	
開講期	後期	()履修単位	(○)学修単位
必選区分	選択	90分授業 × 15回	(15)時間授業 + (30)時間家庭学習
単位数	2単位		
授業の形態、手法	講義		
授業の実施体制	教員単独		
キーワード	ロシア, 宗教, 美術史		
育成する社会人基礎力	特になし		
<p>学習目標(授業の狙い) 本講義では、環日本海地域のうち特にロシアに注目する。ロシアの宗教と、その表象であるイコンに焦点をあて、イコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。またロシア正教は明治期より日本で宣教活動が行われていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。 [制御]A1 [J A B E E基準1(2)] (a)</p>			
【学習・教育目標】			
【関連科目】			
【教科書】教科書	配布プリント		
【教科書】関連図書	高階秀爾『西洋美術史』美術出版社 中澤敦夫, 宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・イコン』東洋書店		
【履修上の注意等】 【備考】			
【科目の達成目標】	【評価方法と基準】		
<p>西欧美術史におけるイコン、ロシア文化におけるイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。 また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。 JABEEの評価基準を満たすには、60点以上必要である。</p>	<p>課題と発表・レポートの内容を総合的に判断する。</p>		

授業項目	授業内容
1回 インTRODクシヨ 美術史におけるイコ ン	授業内容の説明 西欧美術史における、イコ ンの歴史的発展について 学習する。
2回 美術史概論①	西欧美術史の流れを理解する。
3回 美術史概論②	西欧美術史の流れを理解する。
4回 美術史概論③	西欧美術史の流れを理解する。
5回 美術史概論④	西欧美術史の流れを理解する。
6回 美術史概論⑤	西欧美術史の流れを理解する。
7回 美術館実習事前学習	美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習 する。
8回 美術館実習	富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理 解を深める
9回 実習のまとめと報告会	美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備 を行う。
10回 ロシアとイコ ン①	ロシア史における宗教・イコ ンの役割と歴史につい て概観する。
11回 ロシアとイコ ン②	ロシア史における宗教・イコ ンの役割と歴史につい て概観する。
12回 日本の正教会	明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教 会とその発展について学ぶ。
13回 美術館実習	西田美術館において実地研修を行い、作品について の理解を深める。
14回 実習のまとめと報告準備	美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備 を行う。
15回 報告会	美術館での実習を受けて、ロシアイコ ンの作品をとりあげて発表を行う。
期末試験	